

平成20年度地球環境基金助成事業



まんが 混獲問題出前授業



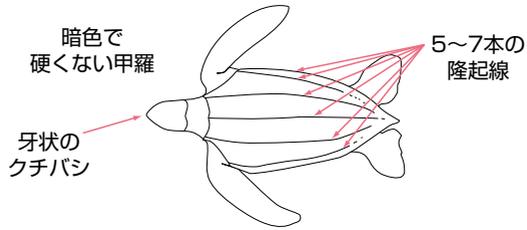
画：草場道輝



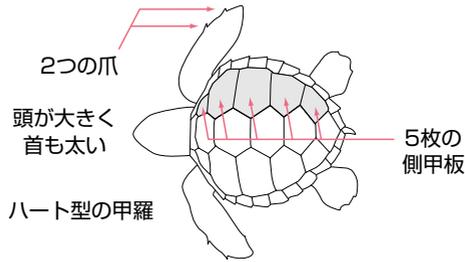
(社) 自然資源保全協会

ウミガメの種の特徴

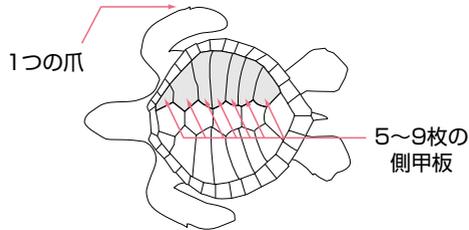
オサガメ



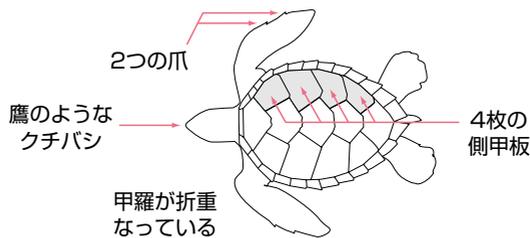
アカウミガメ



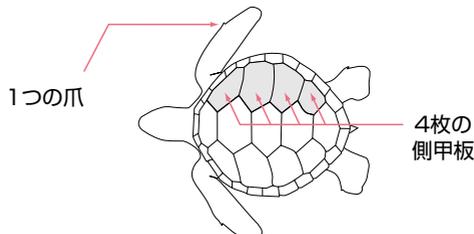
ヒメウミガメ

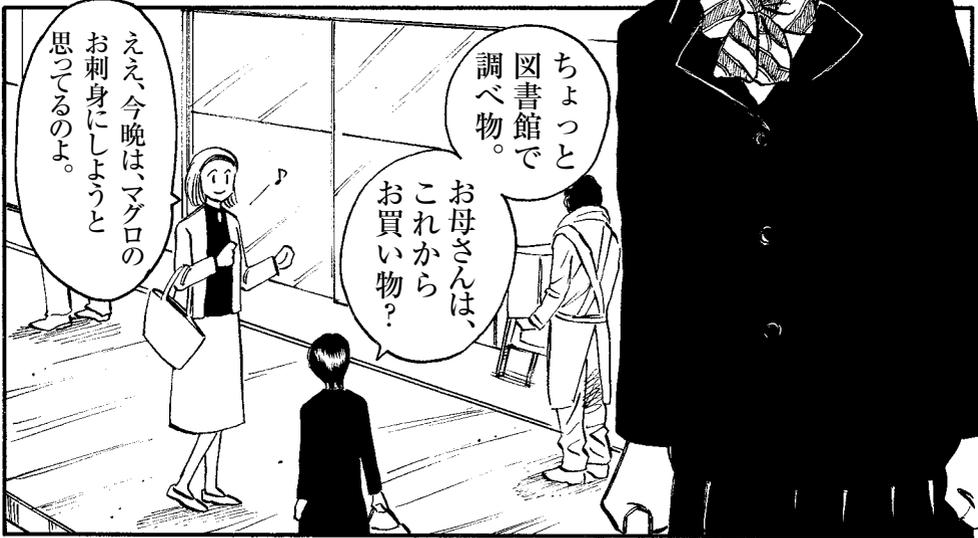
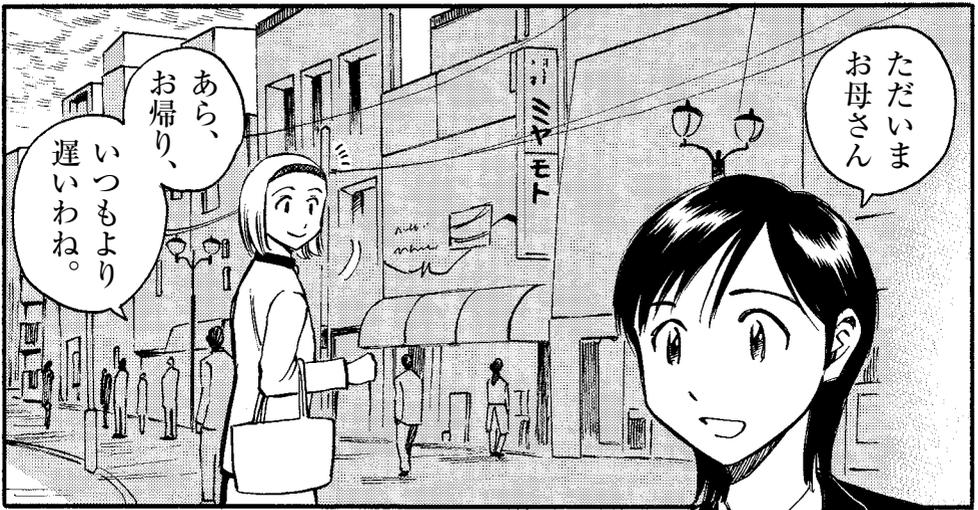


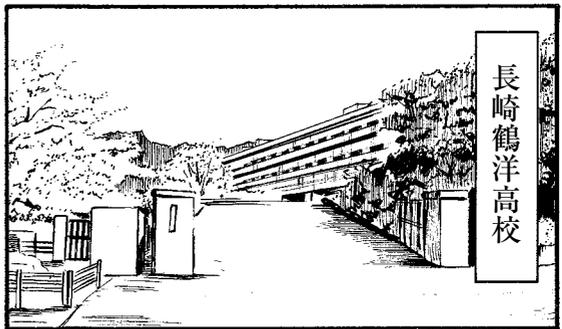
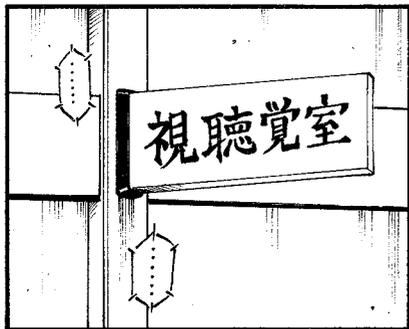
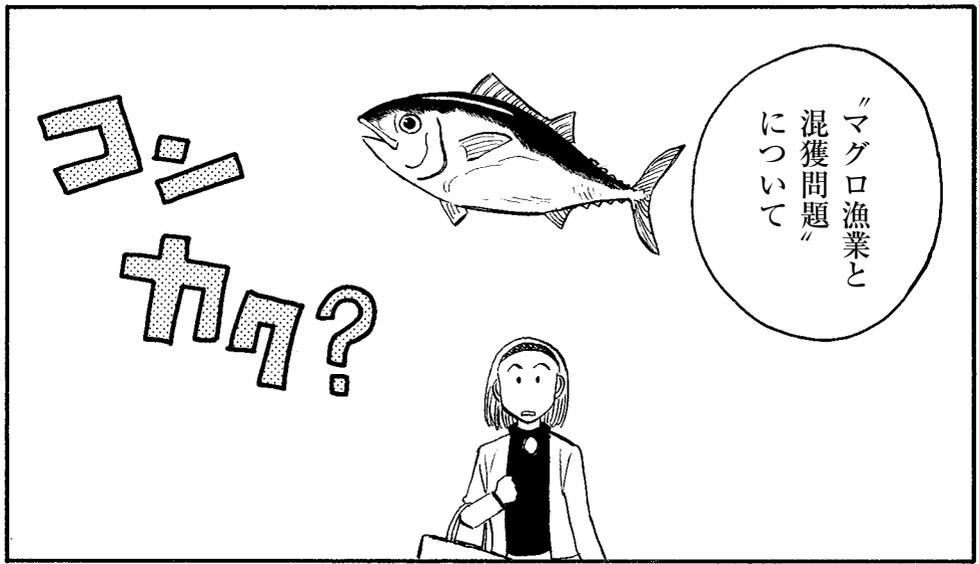
タイマイ

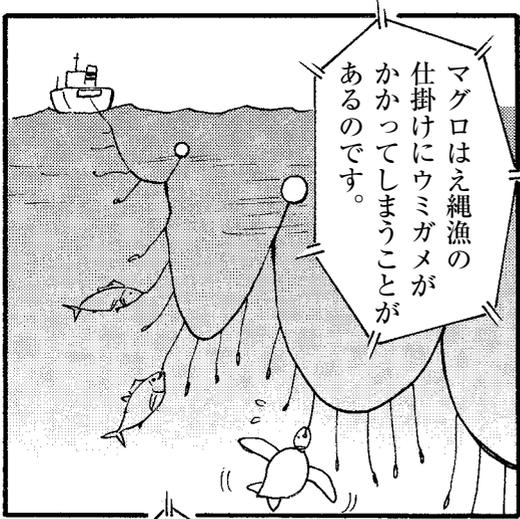


アオウミガメ

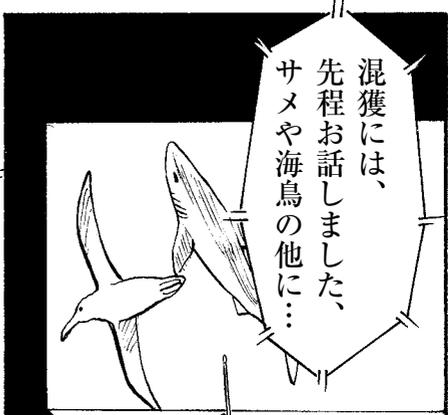








マグロはえ縄漁の
仕掛けにウミガメが
かかってしまうことが
あるのです。



混獲には、
先程お話ししました、
サメや海鳥の他に…

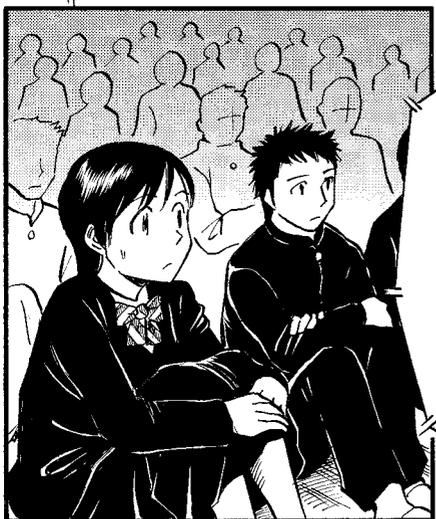


ウミガメも
あります。

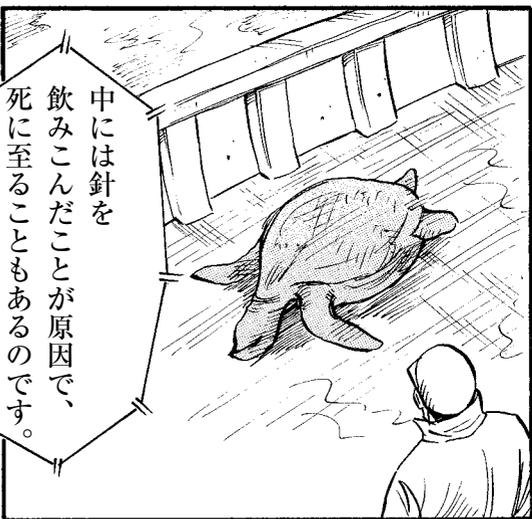


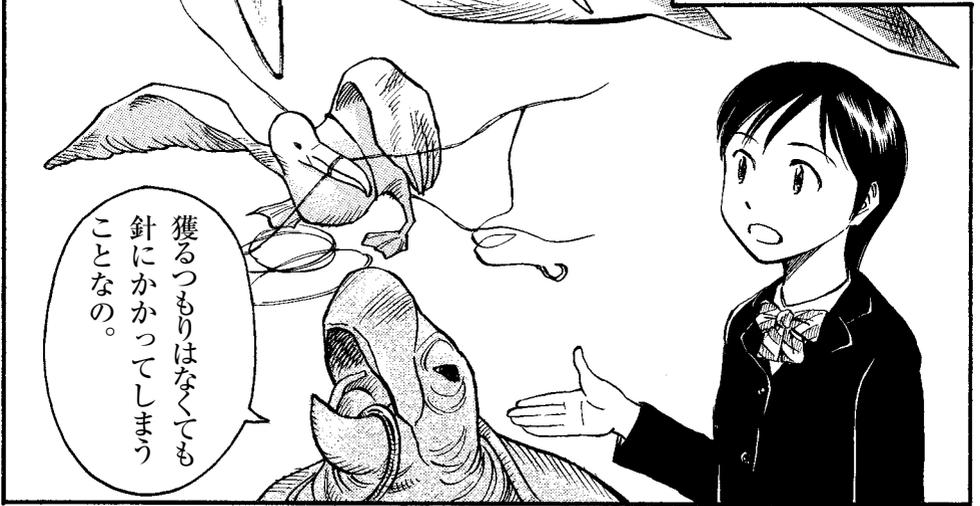
多くのウミガメは
生きているため、

針をはずす等の
処置をしてもらい、
再び海へ放流されるもの



中には針を
飲みこんだことが原因で、
死に至ることもあるのです。





※ワシントン条約によって。



じゃあ
その混獲でとれたカメラで
ベッコウを作れば
いいじゃない!?

それって
本末転倒。

だいたい、
ベッコウに使える
カメラの種類は
決まってるし。



それにね、
種類によっては、
絶滅の危機に類している
ウミガメだっているんだから!!

例えば
オサガメとか。



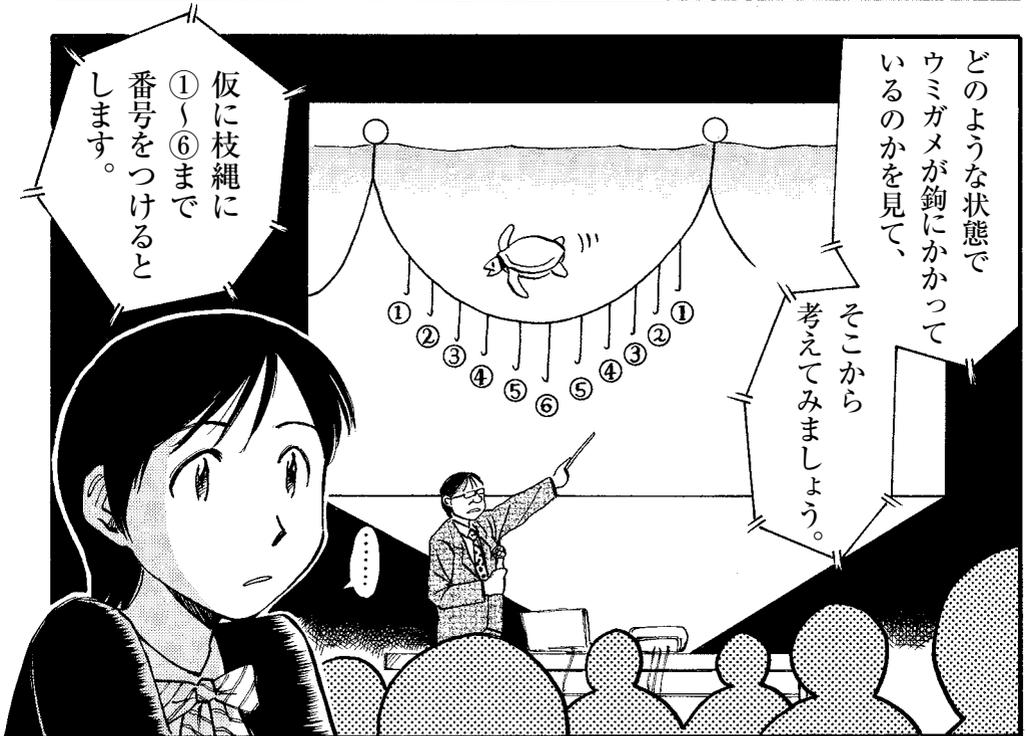
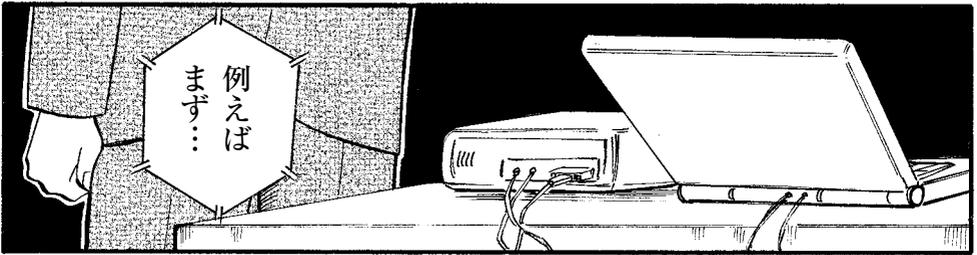
絶滅って…

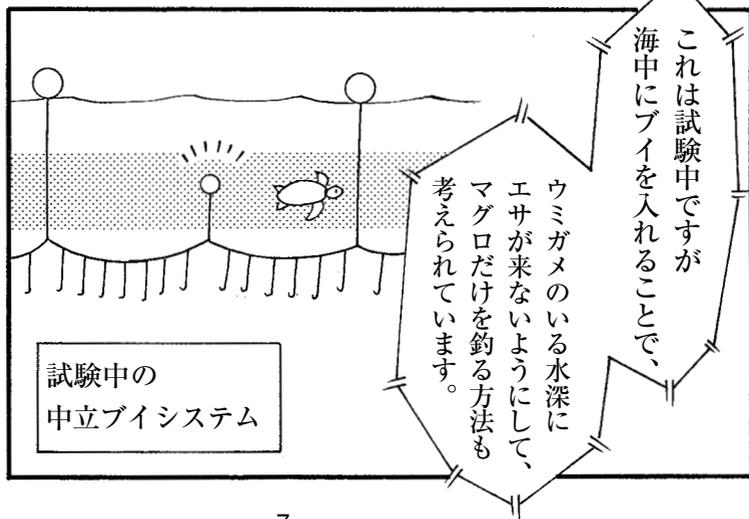
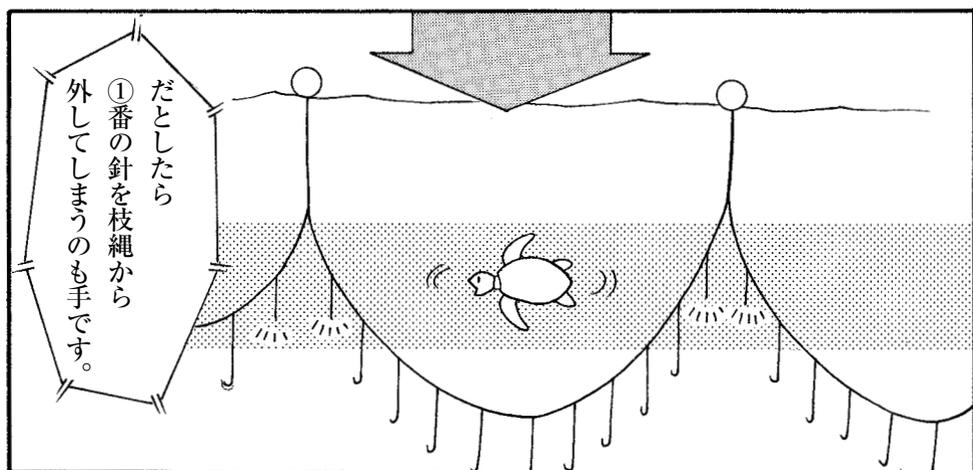
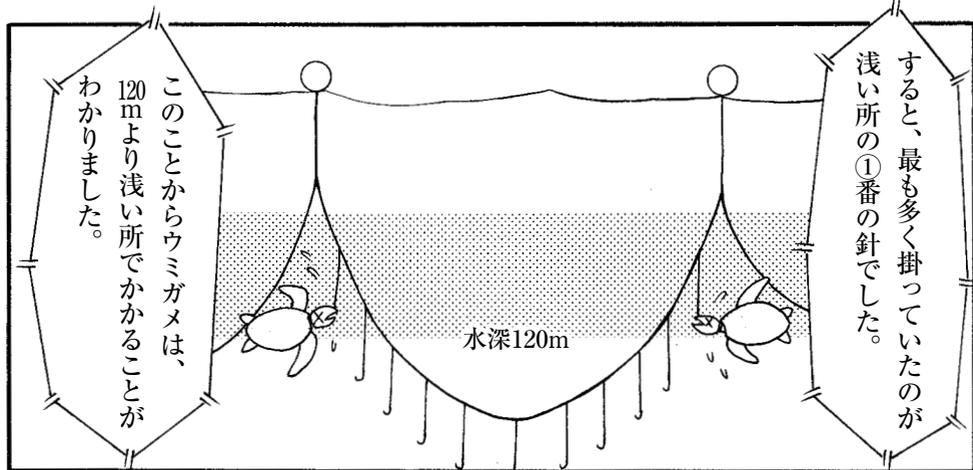
なんか
おだやかじゃ
ないわね

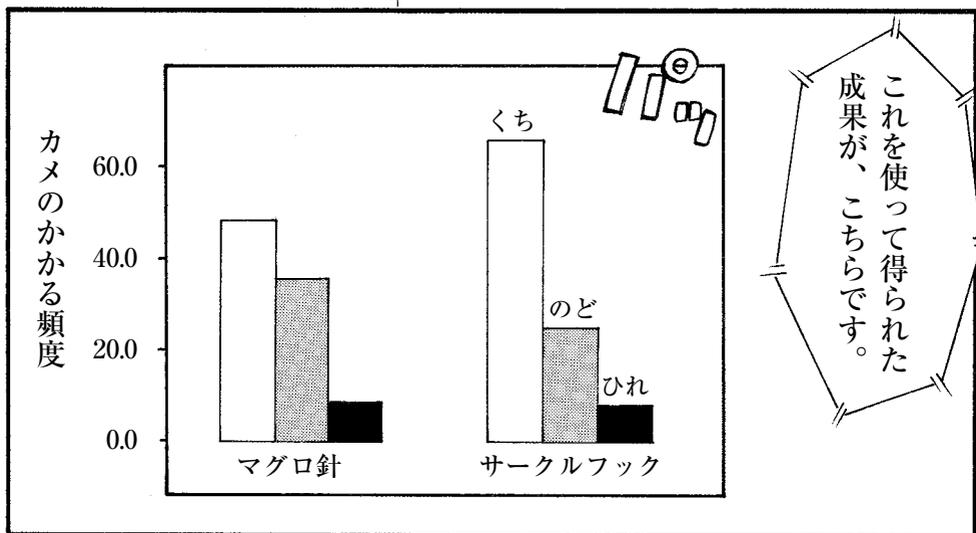
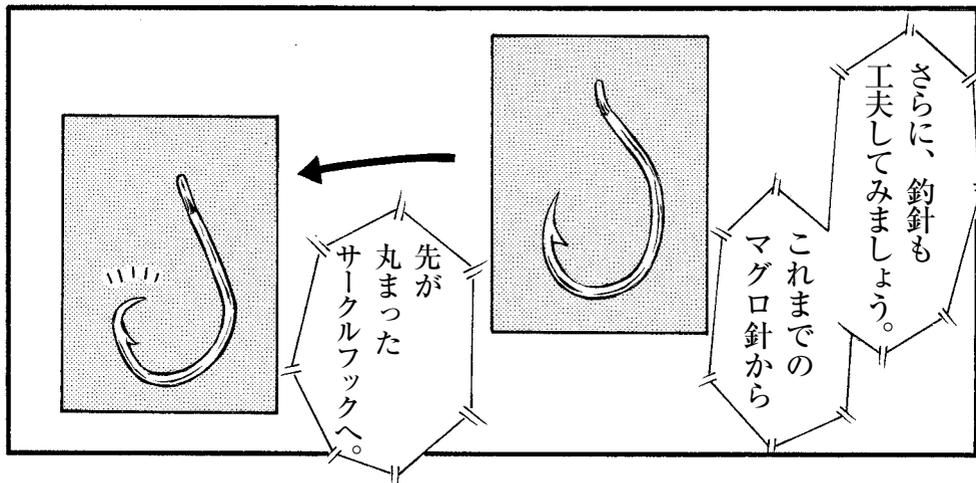
ウミガメが産卵する砂浜が
開発や、侵食によって、

環境破壊されていることも、
ウミガメが減少している
大きな一因でも
あるんだけどね…。

※地球温暖化で海の環境が変化しているのも一因と言われている。





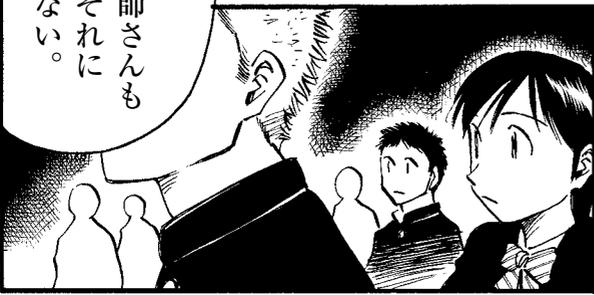


※サークルフックだと口元にかかる率が高いので針をはずしやすい。

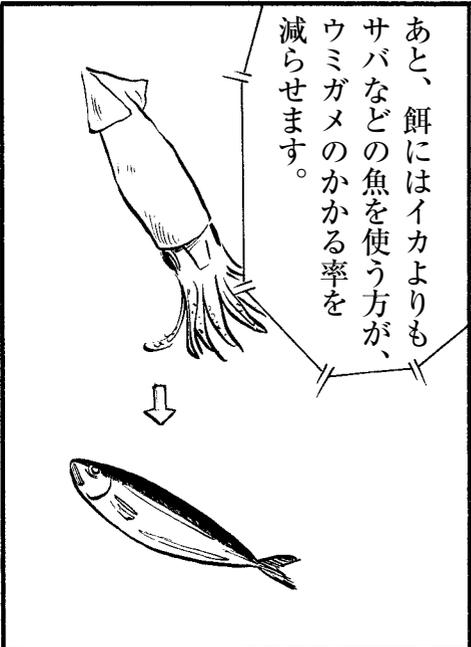


確かにそうだけど、漁師にとっては釣針が命。これまで自分で工夫してきた釣針は簡単には変えられない。

それにコストもかかる。



サークルフックに変えたらマグロが、より獲れるようになったってゆう報告も実は、あるんだけどね。



あと、餌にはイカよりもサバなどの魚を使う方が、ウミガメのかかる率を減らせます。

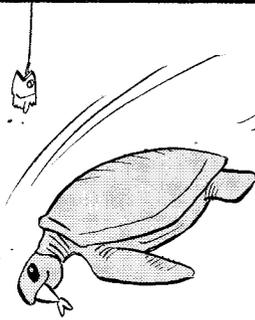
イカはなかなか
噛み切れないから、



噛んでいるうちに
針にかかってしまう。



なので比較的
噛み切りやすい魚を
エサにすることが
勧められています。

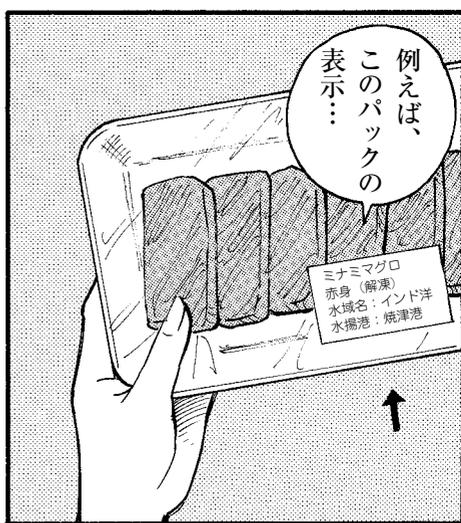


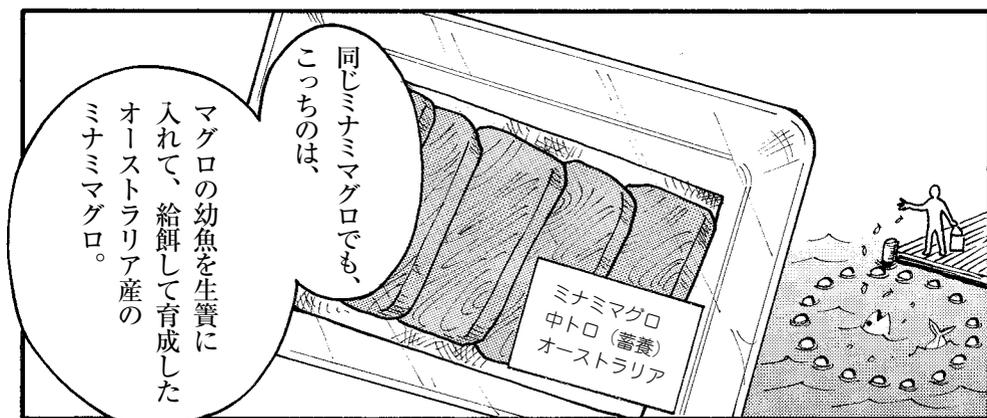
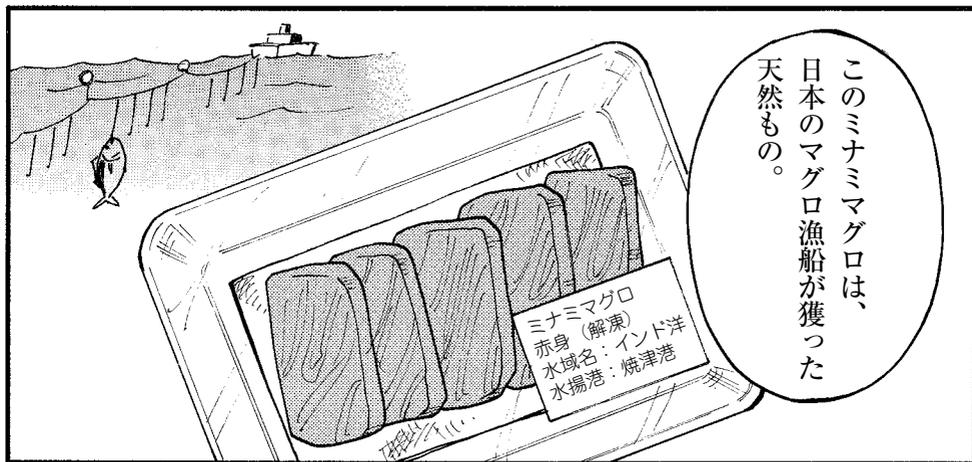
以上が、ウミガメの
捕獲回避法でした。

将来マグロ船に乗る人がいれば、
これらのことを実践して
もらえると思います。









※蓄養という方法は、小さいマグロをたくさんとって生簀に入れるので、乱獲になりやすいという問題もある。

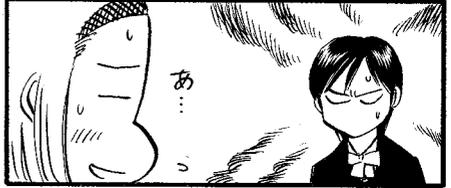
それに、
天然モノの中にも
安いマグロはあるの。



でもそれは、漁業制限などの
国際ルールをきちんと守ってない
船が獲っているから。

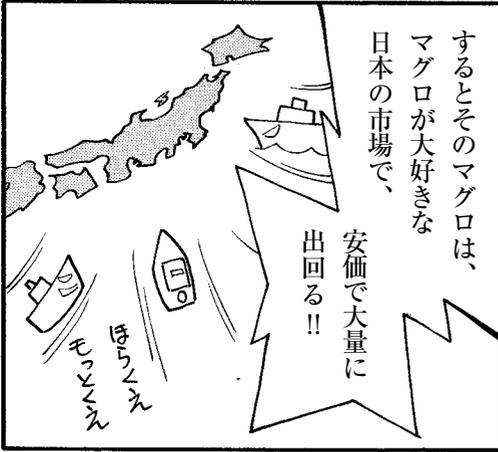


あ…



ルールを守ってないから、
その船はかくれて
マグロを獲りまくる。

するとそのマグロは、
マグロが大好きな
日本の市場で、
安価で大量に
出回る!!



そうゆう船は、海洋生物との
共存なんて考えないから、
「混獲問題」にも
耳をかさない!!



よって、
地球の生態系が、
めちやくちやになる!!

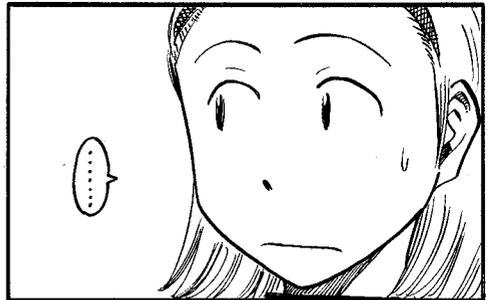
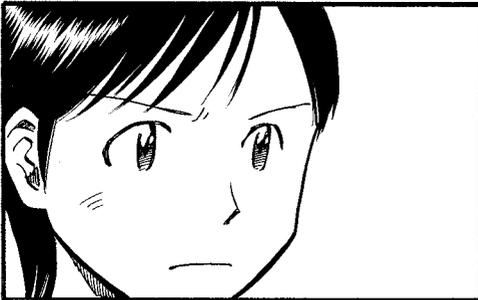


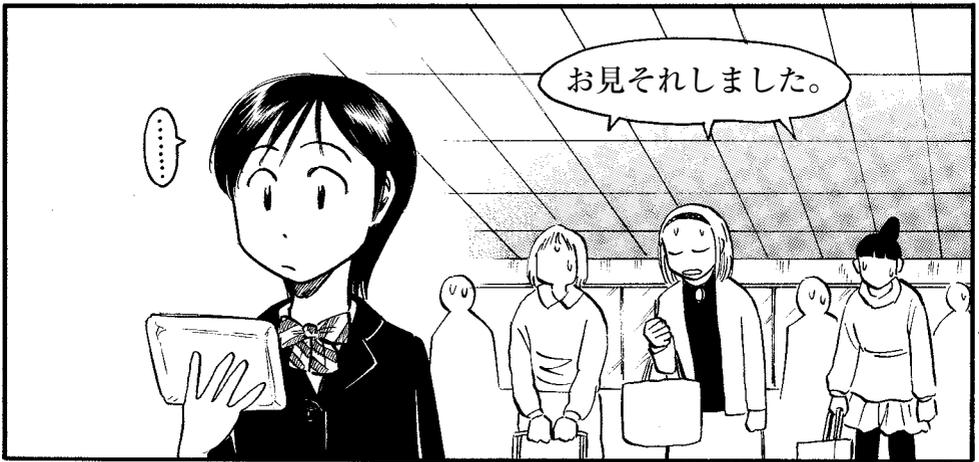
もちろん
マグロもとれなくなる!!

つまりマグロを獲る"って事を真剣に
考えて、ルールを守っている船が獲った
マグロかどうか魚屋さんに聞くなり、

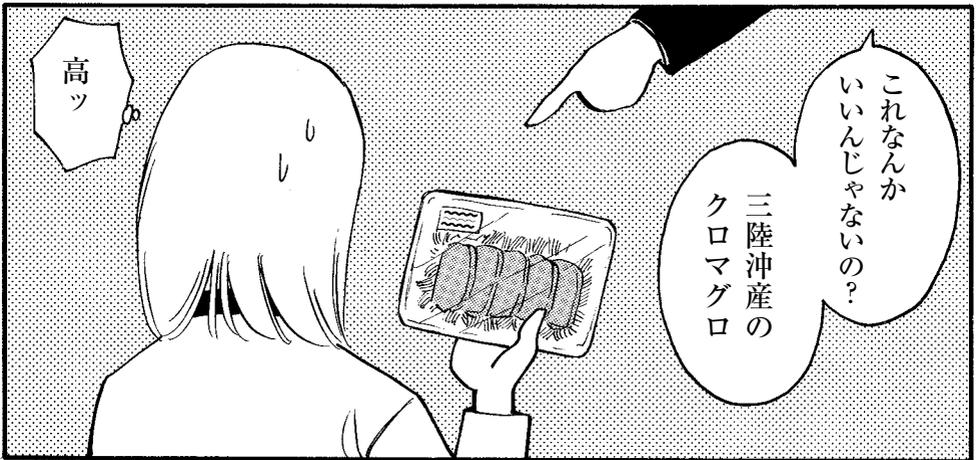
表示をしっかりと見極めて、
安全かつ安心な魚を
選ぶことが、

ひいては、混獲問題の解決や
地球環境保全にも継がって
いくのよ!!





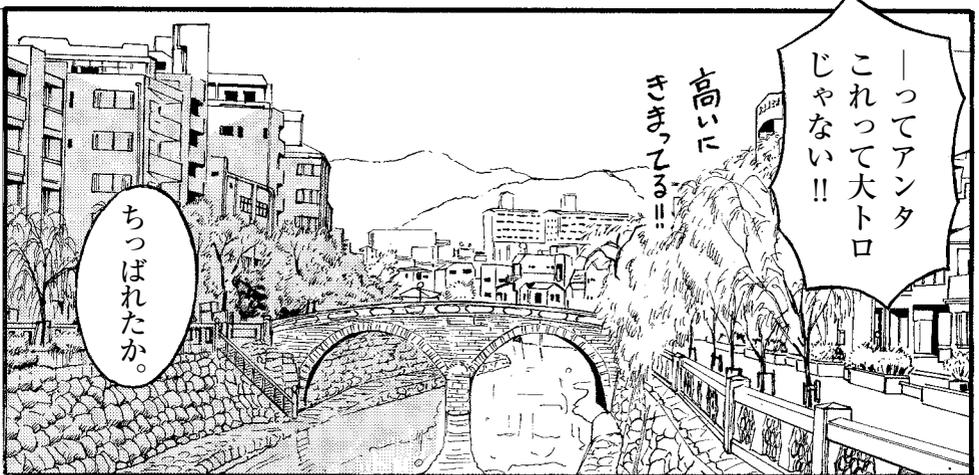
お見それしました。



高ッ

これなんかいいんじゃないの?

三陸沖産のクロマグロ



ちっぱれたか。

高いにきまってる!!

—ってアンタこれって大トロじゃない!!

作者のプロフィール

草場 道輝

漫画家

長崎県諫早市出身

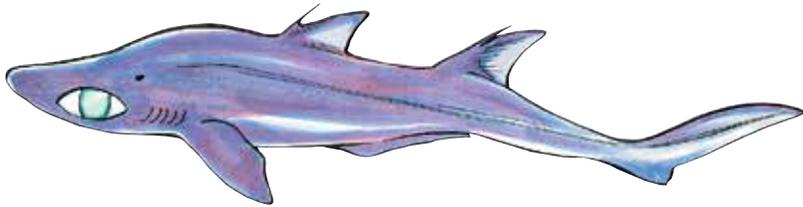
長崎大学水産学部卒業

代表作：「ファンタジスタ」、「見上げてごらん」など

本書の制作にあたり、多くの専門分野の方々からご助言と協力をいただきました。
ここに厚く御礼申し上げます。

2007年3月 社団法人 自然資源保全協会

助成：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金
協力：全国水産高等学校長協会
全国水産高等学校実習船運営協会
独立行政法人水産総合研究センター 遠洋水産研究所
日本エヌ・ユー・エス株式会社



フジクジラ (*Etmopterus lucifer*)

体長は大きくても60cmぐらいまで。両背鰭の前には非常に鋭い棘がある。水深200m～800mぐらいの深海に住む。英語でlanternsharkというように、サメ類では珍しく発光器官を持っている。死んでしまうと真っ黒になってしまうが、生きている時には黒地に藍色に輝く光沢があり、とても美しいサメである。ただし、エメラルド色に輝く目と不気味な顔つきは、確かに“lucifer”を想像させる。



大切にしよう、みんなの地球資源
社団法人 自然資源保全協会

このパンフレットは平成20年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて増刷されました。

